

日経平均株価

2万7927円47銭

▲428円60銭(前日比)

TOPIX

2019. 52

▲24.95(前日比)

2023

3/6

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

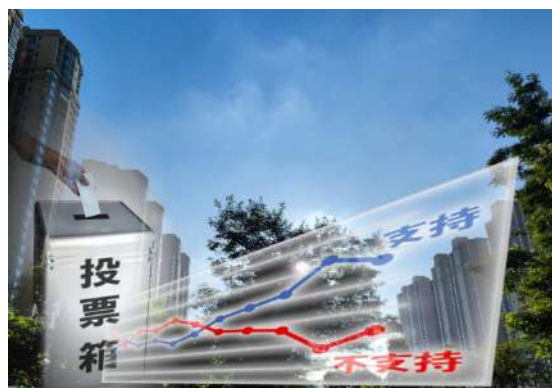
大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



統一地方選挙で春の嵐

岸田政権警戒の4つの補欠選挙



統一地方選まで1カ月

選挙区で実施される衆議院の補欠選挙に加えて、参院の補欠選挙も行われる可能性がある。5月19日から21日まで、広島で開催されるG7サミット

トプデオは、地方選では、選挙結果が、山英幸氏の得票数が、集まる。対立候補は、政治団体

統一地方選の投票日は、道府県と政令市の首長、議員選挙は4月9日で、それ以外の市区町村の首長と議員選挙は4月23日に実施される。これに加えて岸田政権が重要視して

今後の政局に大きな影響を与える可能性がある」との見方を示している。現状では4月23日に千葉県と山口県、和歌山県の合わせて4つの選挙区で実施される衆議院の補欠選挙に加えて、参院の補欠選挙も行われる可能性がある。5月19日から21日まで、広島で開催されるG7サミット

現実味を帯びてくる。一方、地方選では大阪府は吉村大阪府知事の再選は確実だが、市に引き継いで立候補する大阪府の維新の会幹事長で府議の横山英幸氏の得票数が、集まる。対立候補は、政治団体

大阪はプロジェクトに影響も

4月9日からの4年に一度となる統一地方選まで1カ月後に迫ってきた。解散がなければ衆議院議員の任期満了日である2025年10月21日まで国政選挙がないことから岸田政権にとっては安定した政権運営を行ううえで、統一地方選の結果は重要な意味を持つことになる。加えて首都圏以外に目を向けても大阪では松井大阪市長が政界を引退することから府と市で維新トップを維持できることで大阪の今後のプロジェクト動向に大きな影響を与えることになりそうだ。



ト後の解散総選挙も大阪府は吉村大阪府知事の再選は確実だが、市に引き継いで立候補する大阪府の維新の会幹事長で府議の横山英幸氏の得票数が、集まる。対立候補は、政治団体

2月第4週の動意銘柄

東京通信S高で新値

仮想都市空間α版が完成

週明け20日、東京通信(7359)がストップ高で昨年来高値更新。仮想都市空間「AMIZACITYGINZA」のα版が完成したと発表した。AIテクノロジや3DCGの技術を活用して誰もが思い描く(街づくり)ができるプラットフォームを指しており、正式版リリースに向け

てテナント誘致と複数都市開発を進めるとしており、本格的な事業化と今後の収益貢献が期待された。
浜、ゴム今期予想保守的
横浜、ゴム(5101)が続騰、昨年来高値を更新した。

22年12月期の連結営業利益は688億5100万円(前期比17.7%減)と2ケタ減益ながら市場予測を上回り、23年12月期は730億円(前期比6.0%増)と増益を見込んだ。自動車挽回生産と円安も寄与、冬用タイヤが好調で、高付加価値品拡販も進み、今期予想は保守的と見られている。

アップル出尽くし感
アップルインターナショナル(2788)が大幅続落。23年12月期は連結売上高216億6400万円(前期比25.9%減)、営業利益4億8000万円(同67.1%減)を見込んだが出尽くし感から売りが優勢になった。中古車輸出の販路拡大などを進める。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は3週ぶりに反発しました。日経平均は前週末比473円高です。米10年債利回りが4%台に乗せるなど利上げ長期化が懸念されるなか、木曜日までは下値は堅いものの、上値の重い展開が続いていました。ただ、FRB高官Cでの大幅米国株が強週末は400円台に乗せ、約1カ月続いたボックス相場を上放れてきました。週明けは2万の強調展開を期7日に上院銀行ルFRB議長が雇用統計も控えパウエル発言、週末には米2月相場に変動をきたす可能性があり、結果を受けた市場の反応を確認したうえで、バリュウー、グロース問わずの軽い中小型株を狙う考えです。花咲翁



東京通信の日足チャート



ツバキナカ黒字も想定内

21日、ツバキ・ナカシマ(6464)が大幅反落。23年12月期の業績予想について、連結売上収益で860億円(前期比8.8%増)、営業利益で90億円(前期90億6500万円の赤字)を見込んでいるが黒字は想定内、材料出尽くしの

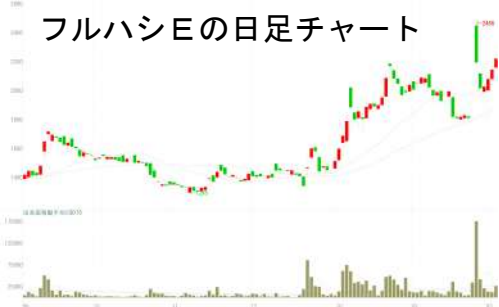
動き。セラミックの成長の更なる加速、メデイカルデバイスでの新規市場開拓などを進める。
ソーダニツカ特別配当
ソーダニツカ(8158)が一時ストップ高。23年3月期の期末配当予想を修正、13円の普通配当に14円の特別配当を加えた計27円(前年同期16円)にすることが好感された。

QDレーザはソニーと協業
QDレーザ(6613)がストップ高。網膜投影機器「RETISSA NEO VIERWER」とデジタルスチルカメラとのセット販売について、ソニーと協業契約を結んだと発表したことを受け、販売増と収益拡大を期待した買いを集めた。ソニー関連会社が運営する国内店舗で販売するが、今後、国

ワインテス貸出契約

内直販サイトや米国の販売も予定。
ワインテス(6721)が急伸。中国の大手半導体組立・テストのアウトソーシング専門会社と量産向け装置導入を前にベンチマークを目的としてLCDドライバー検査装置の量産工程ラインへの貸出導入について合意したと発表した。ウエーハテストや半導体チップの組立とファイナルテストを請負うほか、新パッケージの開発や提案なども行う。

フルハシEの日足チャート



フルハシEPOはS高

1対2株式分割と記念配当

22日、フルハシEPO（9221）がストップ高。3月31日を基準日として1株を2株へ株式分割、2023年3月期配当について期末に設立75周年記念配当10円を乗せ年間配当を50円（前期40円）に増配すると発表した。併せて80万株の公募増資と上限12万株のオーバーアロツ

トメントによる売り出しを行うと発表、希薄化は最大18・5%になるが、バイオマテリアルや資源循環処理能力増強に充てることから、成長投資としてポジティブにとらえられた。

ゆうちょ銀は株売却報道

ゆうちょ銀行（7182）が大幅反落。日本郵政（6178）が保有株を売却する方向で調整に入ったと伝わった。規模は1兆円を超える可能性があり、年度内の売却を想定。保有比率を60%程度まで引き下げ、プライム

市場の上場要件をクリアする狙いで、需給悪化が懸念された。

スマートバリュ連携協定

スマートバリュー（9417）が一時ストップ高。香川県三豊市、ソフトバンク（9434）と「三豊市デジタルファースト宣言」の実現に向けた連携協定を結んだと発表した。「窓口業務改革」や職員の業務効率化になる「働き方改革の促進」などに取り組む方針で、今後、三豊市を軸に西讃地域の広域連携も視野に検討を進めるとしている。

イメージマジは新インク

週末24日、イメージ・マジック（793）がストップ高。国内初となるDTFの弱点を克服した新インク、DTFプリンター用のTrans Jetクリアインクを3月から出荷開始することが材料視さ

れた。従来のDTFプリンターはボカシのデザインなどでは色の薄い部分にも白インクを乗せる必要があった。クリアインクでは白ベタが不要でボカシのデザインの表現の幅を拡げることができる。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



半導体関連軒並み高

エヌビディア好決算が刺激

24日、アドバン

テスト(6857)

やデイスコ(614

6)、東京エレクト

ロン(8035)な

ど半導体関連銘柄が

軒並み値を飛ばした。

ニューヨーク市場で

エヌビディアが市場

予想を上回る好決算

を発表したことを受

けて買い戻しの動き

となった。エヌビデ

ィアの売上高の伸び

を牽引したのは自動

車部門で、日本の半

導体大手も自動車向

けでの拡大期待が高

アドバンテストの日足チャート



公開価格の2.3倍

プライムストラの初値

22日に東証スタ

ンダード市場に新規

上場したプライム・

ストラテジー(52

50)が公開価格1

390円の2.3倍

となる3130円で

初値をつけた。超高

速CMS実行環境を

中心とした製品群

「KUSANAGI

3DMAX今期下方修正

スリー・デー・

マトリックス(77

77)が大幅続落。

23年4月期の連結

営業損益予想を16

億9400万円の赤

字から30億830

0万円の赤字(前期

27億3600万円

の赤字)に下方修正

した。ドイツの販売

転ばぬ先のテクニカル

日本株、上放れ!

先週の東京株式市場は反発し、年初来高値を更新しました。2月前半から2万7500円を挟んで膠着相場が続いてきましたが、ようやく上に放れました。

米国市場はこのところ長期金利の上昇を受けてダラダラ下げが続いてきましたが、2日のS&P500指数は一時200日線を割り込むものの、その後は切り返して陽線包み足となりました。200日線がサポート機能を発揮して切り返した意味は大きく、それが日経平均の上放れに寄与したものと思われます。

1月4日安値(2万5661円)と2月6日高値(2万7821円)高値、2月22日押し目(2万7046円)から計算される上値ターゲットはNT計算値が2万8431円、V計算値が2万8596円、N計算値が2万9206円、E計算値が2万9981円であり、ここはトレンドに素直に乗っていく局面と考えます。日々勇太朗



3月第1週の動意銘柄

サイエンステックAIと連携

週明け27日、サイ

エンステック(4

412)がストップ高。

提供するライブコミ

ュニケーションプラ

ットフォーム「バデ

ィコム」とリアルネ

ットワークスのAI

顔認証「セイファー

」との連携機能を4月

3日から試験提供す

ると発表した。バデ

ィコムのライブキャ

スト機能使用時に映

像セイファーでリア

ルタイムに解析、人

物の特定が可能にな

り、警備、鉄道、小

売など安全の確保が

必要な現場で、AIを

活用した映像コミュニ

ケーションを実現

タスキ需給悪化懸念
タスキ(2987)が急落。公募による200万株の新株発行と上限30万株のオーバードットメントによる売出しを事実すると発表したことを受け、稀薄化

と需給悪化懸念から売りがかさんだ。発行済株式総数に対する増資による増加株数は最大で19.5%に達する。手取り概算約24億円はSaaSサービスの開発・運営する子会社への投融资資金やIoTレジデンス事業などの開発に充て

アイルは上方修正

4)がストップ

高。同社は24日

の取引終了後、2

3年7月期の業

績予想の修正を

発表、連結売上高

で141億円から1

50億円(前期比1

5.9%増)へ、営業

利益で24億円から

31億円(同47.6

%増)へ上方修正し

た。半導体不足によるサーバー機器の納品遅延の影響の解消などが当初の予想を上回り、堅調に推移したため。

企業観察

DmMiX (7354)

新規需要開拓急速に進む

360億円（前期比3・8%増）、営業利益58億円（同0・5%増）と見込んだ。22年12月期の連結決算は14・5%増収、20・7%営業増益で上場来2期連続で最高業績を更新したことから発射台が高く、今期は次の成長への躍り場になるが、前期まで収益を押し上げてきたコロナ関連需要の剥落をカバーしての増収増益であり、新分野の需要の取り込みが急速に



ダイレクトマーケティング（7354）は23年12月期について、売上収益

デジタル軸にした新成長ステージへ

進むことになる。前期は新型コロナワクチン接種業務などコロナ関連需要が売上収益の約10%、営業利益の約25%を占めていた。ただ、「通信は周辺ビジネスの拡大で緩やかながら成長が続き、生産性向上と医療、モビリティなど新規分野の伸びでカバーできる」（小林祐樹社長）と計画達成に自信を見せる。すでにデジタルを軸にした新しい成長ステージへの移行が始っており、キャッシュレス決済を中心にオンライン診療やソーシャルギフトなど幅広いサービス領域で新規開拓が進展。

マイクロアドS高最高値

台湾越境EC支援事業で提携

28日、マイクロアド（9553）がストップ高で最高更新。台湾現地法人が越境EC支援のスタートと提携したと発表された。日系企業のEC事業の台湾進出で支援サービスを提供すると、今後の収

藤商事需給悪化懸念

藤商事（6257）が急反落。自己株式を活用した第三者割当による行使価額修正条項付き新株予約権を発行すると発表したこと、需給の悪化を懸念された。潜在株数は150万株で、希薄化率は6・7%。手取り概算22億7900万円はスマートパチンコ・パチスロの研究開発費に充てる。あわせて東証自己株

クシムWeb3で協業

式立会外買付取引で150万株（自己株式を除く発行済み株数の6・70%）を取得したと発表したが、反応は限定された。クシム（2345）がストップ高。連結子会社のチューリンガムが暗号資産でフルラインナップサービスを提供するSBIVCトレードとWeb3領域における協業を目指し業務提携をすると発表したことが好感された。

味の素上方修正と消却

1日、味の素（2802）が急伸。23年3月期の業績予想について、連結純利益で830億円から900億円（前期比18・9%増）へ上方修正した。固定資産（遊休資産）の売却益計上などが要因。同時に3月27日に719万8100株（消却前の発行済株式の総数に対する割合1・34%）の自己株式を償却す

Eインフィ連日S安

と発表した。Eインフィ連日（7692）が連日のストップ安。3月16日を基準に1株を4株に株式分割すると発表したが下げ止まる気配はない。目標にしていた「6月までに時価総額600億円」の達成と急騰の反動に加え、27日からは信用規

安永ガリウム向け採用

制がかり利益確定の動きが続いた。安永（7271）はストップ高。ワイヤソーが次世代のパワー半導体向け新材料の酸化ガリウム向け加工設備として、ノベルクリスタルテクノロジに採用されたと発表した。酸化ガリウムは結晶の成長速度が速く、高耐圧で省エネの電力変換・制御用半導体として有望視される。

ルームなどテスラ急落で

2日、ルーム（6963）やレーザーテック（6920）など半導体関連株が売られた。ナスダック時間外取引でテスラが急落したことを嫌気。テスラは投資家向け説明会で次世代「EV」に言及したが、詳細を明らかにしな

大テタ値上げ伝わる

の本格普及が遅れるとの懸念が関連銘柄売りに繋がった。大阪テタニウムテクノロジーズ（5726）が急反発。スポンジチタンの23年度国内価格交渉が引き上げる方向でおおむね決着したと伝わった。上げ幅は前年度比30%程度になるよう、東邦チタニウム（5727）も高い。

高野恭壽の 株式情報

これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

から目
るこ
んこ
い進
も進
サ(6
674
う。GS
う。GS
が必
少し
押し
いて
定売
急伸
6(1
待で
待で
6(1
ウム
6)が
抜け
待で
6(1
急伸
6(1
ウム
6)が
抜け
待で
6(1

週末3日の東京市場は日経平均で400円超高と大幅に反発しました。ミネアポリス連銀のカシユカリ総裁がピーク金利を12月見通しを5・4%から引き上げる可能性に言及するなどタカ派的な発言が相次いでいきましたが、2日にはボステックアトラクタ連銀総裁が夏の利上げ停止の可能性に言及したことで金利上昇への過度な不安が一気に後退しました。これで安心するのは早計ですが、日経平均では年初からの揉み合いゾーン上限を超えて2万7900円台に乗せ上放れの動きです。今週末には25先物オプションのメジャーS&Qを控えています。

大幅増収で小売りも

動きに期待。

0円抜けに向かいそうです。個別ではレーザーテックや東エレクトのハイテックの一方でファーストリテイリングなど内需も買い進まれています。2月の月次売上高が軒並み大幅増収で、消費の力強さが買い安心感に繋がりました。H2Oテリテイリングは高値を更新し三越伊勢丹ホールディングスなども派手さはないものの上昇基調となっており、小売りが引き続き狙えそうです。

素材では昨報の大阪チタニウムテクノロジーズ(5726)が続伸となり、25日線抜けとなれば更なる戻りが期待できそうです。東光高岳(617)は急伸後とあって利益確定売りが続いているが、押しは浅く、少し日柄調整が必要でしょう。

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

2万8000円抜けへ

先は需給面の不安はありまので、2万8000



2日、AIinside(4488)がストップ高。東北大学吉田和哉研究室と月面・宇宙など極限環境で稼働する「高耐久・高性能・省エネルギー」な次世代型AIの共同研究を開始すると発表したこと、早期実用化を期待した買いを集めた。一部報道で伝わっていたことで朝方から買いが先行していたが、正式発表を受け値幅制限いっぱいまで買われ

AIinsideはS高

東北大と次世代AI共同研究

た。宇宙進出を加速

2・16% (99万

サイボウズ井村氏大株虫に

ファストリ2月大幅増収

週末3日、ファーストリテイリング(9983)が続伸。2月の月次売上高は、直営店+Eコマースで前年同月比25・5%増、既存店+Eコマースで同21・3%増となった。気温が高くなり、春たことで、春物商品や新生活需要を捉えた商品が順調に立ち上がった。

工呼吸器を装着しな

合機構(PMDA)

へリオス追加試験合意

2000株)を保有する第8位の大株主になつていることが判明したことを受け需給への思惑から買いが向かった。三井松島をはじめ井村氏の保有銘柄は軒並み上昇している。

させ、気候変動や人口爆発、食糧危機など世界規模の社会課題の解決、人類社会の進化への貢献を目指すとしている。

厳選

活躍期待銘柄



ファインズ (5125)

動画活用したDXで躍進へ

ファインズ(5125)の株価は2月13日に1111円まで突っ込んだあとは出直る動きになってきた。2月20日に1644円まで短期急騰したこと、目先のな利益の押しに押されているものの、25日線や50日線の1400円付近は狙えそうだ。企業のDX化に向けて動画を中心に「付加価値の向上」と「業務の効率化」の両輪を行う「動画を起点としたマーケティングDX」を展開する。主力サービスである「Videoクラウド」の導入社数は2500社に迫る勢い。

23年6月期は売上高で29億7900万円(前期比14・8%増)、営業利益で7億3500万円(同24・3%増)と大幅増収増益を見込む。VR/インタラクティブ技術を活用した疑似展示場動画などの拡大が期待される。(と)

今6月期24%営業増益見込む



合同製鐵 (5410)

大幅黒字転換でPER5倍台

合同製鐵(5410)は好決算発表受け急伸のあと、5日線を下値支持に水準を切り上げ最高値更新、青空相場を一段高へ進んできた。エネルギー価格高騰に対応した販売価格引き上げが順調に進む一方、原料の鉄スクラップ価格の調整局面が長引き、コスト改善が想定以上に進捗、23年3月期第3四半期は連結営業損益91億4800万円の黒字(前年同期24億9000万円の赤字)に浮上、通期予想を75億円の黒字から125億円の黒字(前期26億9700万円の赤字)に上方修正した。大幅黒字転換に伴い、期末配当を70円から倍増の140円に引き上げ、年間配当を190円(前期無配)とした。PERは5倍台の低水準で配当利回りは5%を超え、3月期末に向け権利取りの買いが下値を支えることになる。(さ)

配当利回り5%超え権利取り

チャート から読む 騰落銘柄

エイワン(5989)



PBR 0.2倍が評価され2月13日の594円を底に一気に25日や50日線を突破。昨年11月25日の670円や2月1日の666円を抜ければ20年12月高値926円を目指す。でなければ調整へ。

ELEMENTS(5246)



2月2日に最高値1275円をつけてから調整続くが、押しは浅く上昇してきた25日線を下値に出直り歩調。オンライン本人確認サービスの成長性を織込み、高値奪回から一段高へ。信用規制も解除される。

レノバ(9519)



2月10日の安値2030円を底に25日線越えまで上昇するも再び売りに押される。2月6日に発生した御前崎港バイオマス発電所建設工事における労働災害事故も重石で2000円割れから下げ加速懸念。

リクルートHD(6098)



3Q減益着地を失望、マド空け急落のあと5日線に上値を抑えられ下値模索続く。底割れ状態で押し目買いに積み上がった信用買い残も重荷。大勢下降トレンドのなか当面3000円近辺までの下落も。

※チャートは日足

星野三太郎の株街往来

～株主優待の意義～

3月決算

企業の権利付き最終日が29日に迫り、配当や優待内容で銘柄を選別する方が多いと思う。

高配当銘柄を買って多くの現金を貰うほうが良いだろうが、優待を実施している企業から自社商品などが贈られてくると少し嬉しい気分になり、その銘柄を持ち続けようと思ったりするから長期保有を促す意味で優待制度重要な施策だと思う。

ただ、大和総研調査によると株主優待の実施企業数は2019年で頭打ちとなり、足元では株主優待の新設企業数を廃止企業数が上回っているという。「公平な利益還元のため」が廃止理由として多いそうだが、よくよく考えたら優待を受けて喜ぶのは個人投資家だけであり、機関投資家や外国人投資家にとつたらその分を配当として貰うほうが良いだろう。

投資家にとって良い銘柄は買った翌日から株価が上昇して利益確定できること。含み損がでて仕方なく長期保有する投資家もいるだろうが、その会社を応援するべく長期保有する投資家も存在する。その意味では優待を実施する企業が増えてほしい。



New product

ダスキンの桜のうつろいをイメージ

「桜もちっとドーナツ」全4種期間限定で



ダスキン(4665)が運営するミスタードーナツは「桜のうつろい」をイメージした「桜もちっとドーナツ」全4種を期間限定で販売している。

桜の季節の訪れを知らせるつぼみから、五分咲き、満開、そして葉桜までのうつろいを表現。もちっとした食感の桜風味の生地をきなこシュガーでやさしく包んだ「つぼみ」、桜風味のホイップと桜色のストロベリーチョコをあしらった「五分咲き」、桜フレークチョコで桜の風味を存分に味わう「満開」、桜葉の香りと塩味がアクセントの桜葉入りのうぐいす風あんで芽吹く若葉を表現した「葉桜」と「桜のうつろい」をイメージした4種類を用意している。

「大逆転裁判1&2」を上演

カプコン

宝塚歌劇団がミュージカルで

大逆転裁判 1&2

— 成歩堂龍ノ介の冒険と覚悟 —

カプコン(9697)の人気ゲームシリーズ「逆転裁判」から「大逆転裁判1&2」が、宝塚歌劇団によるミュージカル作品として、今年7月に大阪、8月に神奈川でそれぞれ公演される。今回の原案となる「大逆転裁判1

と2」は、19世紀末、明治時代の日本と倫敦(ロンドン)を舞台に、主人公、成歩堂龍ノ介の活躍が描かれている。カプコンと宝塚歌劇団との連携は2009年に公演された「逆転裁判・蘇る真実」を皮切りに「逆転裁判」シリーズを原作に3作、「戦国BASARA」シリーズを原作に1作の計4作が上演され、いずれも人気を博している。今作は宙組公演として上演され、脚本・演出は宝塚歌劇団演出家の鈴木圭氏が手掛け、主演には今後活躍が期待される若手男役・瑠風輝氏を配している。

企業レター

潮流

米S&P500は過大評価

日本株も重要な局面迎える?

marKet/bAnk



から市場の金融政策見通しを測る「フェドウォッチ」によればターミナルレート（利上げの最終到達点）は6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において5.25～5.50%に達するとの見通しだ。その後は2023年末までその水準を維持すると見込まれており、米連邦準備理事会（FRB）が22年12月のFOMCで示した23年末に5.00～5.25%とする政策金利見通しを上回る。

欧米金融機関の間では後発組による金融政策の見直し修正が相次ぐ。これまでは3月に25bpの利上げを実施し、ターミナルレートは4.75～5.00%と見込んでいた。JPモルガンは2月27日付リポートで「歴史は、現在の実質金利の水準ではS&P500のマルチプル（想定倍率）が2.5倍過大評価されていることを意味している」と指摘。

ここ数カ月におけるバリュエーションの拡大には日銀と中国人民銀行による資産拡大の影響が大きかったといい、先行きは日銀が政策修正方向にあることや3月から欧州中央銀行（ECB）が量的引き締め（QT）を開始すること、米英の中銀がQTを継続していることを踏まえると、

中銀による株式市場へのサポートは「過去のものとなる可能性が高


い」との見解を示した。米10年債国債利回りから市場が織り込む将来の予想インフレ率（ブレーク・イーブン・インフレ率＝BEI:10年）を差し引いて算出した実質金利は2月に上昇に転じ、その

一方でS&P500のPERはピークアウト感があることから、この傾向に拍車がかかる可能性がある。

米長期金利は3.98%と昨年11月以来の高水準だ。2月初めには3.5%を下回っていたが、1カ月足らずで0.5%あまり水準を切り上げ、節目の4%が目前となっている。

米雇用統計やインフレ指標の上振れによる金利の上昇と連動して米株相場は下げ基調となった。ダウ平均は2月に月間で4%下落し、多くの機関投資家が運用指標とするS&P500種株価指数は2%あまり下げた。S&P500種（28日は3970）は長期のトレンドを示す200日移動平均（28日時点で3940）を割り込めば、円安で底堅い日本株にも売り圧力が強まる。重要な局面を迎えることになる。

潮流銘柄はミタチ産業（3321）、スズデン（7480）、ナ・デックス（7435）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。
<http://marketbank.jp>

中銀サポート過去のものに

ミタチ産業の日足チャート



米2月雇用統計に注目

2万8000円超えると動き拡大

先週の日経平均は前週末比約473円高と3週ぶりに週足陽線となった。ここ数週間足陽線となった。ここ数週間は2万7500円を挟んでもみ合いが続いていたが、米国株高と137円台まで進んだ円安を好感し2万8000円に迫る上昇となった。

金曜日はフアーストリテイリングの上昇により日経平均がTOPIXに比べ上昇したが、TOPIX

Xは昨年11月の高値(2023・39)まであと2ポイントまで迫っており、今回の上昇はバリュー株優位は変わっていない。金曜日の上昇は昨年8月の高値を起点とする上値抵抗ラインを抜けてきたため、売り方の買戻しが上昇に弾みを付けた感じはする。金利上昇過程での株高には違和感もあるが、市場にはコロナ禍でばら撒かれた資金がま

は米国の連銀理事の発言により左右されるケースが目立つが、やはり注目は10日の米2月雇用統計発表だろう。1月の雇用統計は予想外の強さだったが2月も失業率3・5%や新規雇用が30万人超とかで発表されると、21日と22日の米FOMCで大幅利上げの可能性も出てくるため一気に警戒感

は米国の連銀理事の発言により左右されるケースが目立つが、やはり注目は10日の米2月雇用統計発表だろう。1月の雇用統計は予想外の強さだったが2月も失業率3・5%や新規雇用が30万人超とかで発表されると、21日と22日の米FOMCで大幅利上げの可能性も出てくるため一気に警戒感

敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話



ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



米FOMCで大幅利上げの可能性

TOPIXの日足チャート



は米国の連銀理事の発言により左右されるケースが目立つが、やはり注目は10日の米2月雇用統計発表だろう。1月の雇用統計は予想外の強さだったが2月も失業率3・5%や新規雇用が30万人超とかで発表されると、21日と22日の米FOMCで大幅利上げの可能性も出てくるため一気に警戒感

で楽観は禁物である。幸い発表は週末なので金曜日の3月SQには直接大きな影響はないだろう。今週はメジャーSQ週なのでポジション調整を巻き込んで相場が動きやすい週となる。先週の流れからすると、2万8000円を超えてくるとコール売りのヘッジ買いが入る可能性もあり、動きが大きくなりそうである。チャートでもみ合い離れとなっており一段高が期待されるところであるが、SQ値決定後の雇用統計警戒売りにも注意したい。今週は2万7500円と2万8400円を想定する。(ハチロク)

日経225先物の日足チャート



